



朝焼けに聳え立つ上五島中通島山王山と、外洋から到着した船舶



発行所
比叡山時報社
□jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
大津市坂本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

比叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中に会報(比叡山時報)購読料を含む。

永劫に照らし続ける
永照統
令和元年比叡山から
発信する言葉



〒604-8072
京都市中京区六角通五番町
電話○七五二二五五番

総本山延暦寺御用達

山王とは伝教大師最澄が創建した延暦寺のある山、比叡山(日枝)の地主神であり、延暦寺の守護神として、更に全国の多くの天台宗寺院の守護神として尊崇されている。その名のもとは、中国天台山国清寺の地主神、山王元弼真君といわれ、伝教大師が中国から帰国後、故郷の神にも命名されたものと考えられる。

その山王社の一つが、長崎県上五島に祀られて千二百年を迎えたこと、そしてこの度、多くの方のご尽力と思いを受けて伝教大師の尊像が建立されたことに、心からのお慶びと感謝をお伝えしたい。

遣唐使という文字通り命がけの航海の、日本を離れるスタートと、日本に帰つてくるゴールでもあるこの五島の山並み。この山並みは、見納めの故国であり、待ち望み夢に見たであろう故国である。

伝教大師は、往路命がけの航海を渡りきり、天台山からまさに期待した成果を持って今度は帰国の航海へ。辿り着かねば折角の成果も伝えられない。暴風の中、航海の無事を一心に祈ると、舳先に童子が現れて、「私は天台山の鎮守、仏法擁護の神である。仏法の東漸のため、一緒にあなたの国に参りましょう。」童子に名を尋ねると、「上は縦に三本、横に一本。下は横に三本、縦に一本」「山王」の文字を示されたと伝えている。(『山家要略記』) 大波の難の中、この五島の山々が見えてくる。その時の伝教大師の思いを想像しながらこの山並みを拝む人が多くいたに違いない。伝教大師と共に山王神が日本最初の足跡を記したであろう場所が、今までこうして祀られてきたのだろうと想像する。

山王は、伝教大師に従い航海の無事を守り、この五島の地に日本の最初の到達の迹をさしき、そしてついに無事に比叡山へ仏法を伝え、比叡山の地主神となつた。その後天台仏法の守護神となり、天台宗寺院とともに全国へ広がつたのだ。

五島では、「根本中堂の不滅の法灯にもしもの時はここから再び灯を運べ」と伝えられているという。仏法東漸の確かな足跡の場所からもう一度たどるべしとの意味を考えられよう。

上五島の山王社と伝教大師

